

特定非営利活動法人・総合型地域スポーツクラブ

# 「ハピスカとよさか」の橋本弘さんに聞く

(プロジェクトマネージャー)

吉田 武雄

はじめに

「ハピスカとよさか」は特定非営利活動法人・総合型地域スポーツクラブとして、新潟市に隣接する豊栄市で活動しています。総合型地域スポーツクラブでは県内初のNPO法人格（民間非営利団体）を二〇〇三年二月に得ています。ハピスカはハッピースポーツカルチャークラブの頭文字から作ったということです。

「ハピスカとよさか」のプロジェクトマネージャーの橋本弘さんにその活動や問題点などをお聞きしました。

一、総合型地域スポーツクラブとは何ですか

スポーツを通して豊かな人づくり・まちづくりを目指す市民組織で、市民のための、市民による、会員制のスポーツクラブです。豊栄市民をはじめ近隣市町村の方々に門戸が開いて入会してもらっています。会員でない方もビジター参加できます（料金必要）。

「一人でも、参加できます」が、このクラブのキャッチフレーズで、その特徴をよく表しています。スポーツを楽しむたい、どなたにでも、指導者や施設・用具をそろえて待っています。今年度は次の四つが行わ

れています。

コミュニケーションスポーツ、チャレンジスポーツ、各種イベント、各種講演会・研修会の四事業です。コミュニケーションスポーツは、楽しむことを基本にします。ですから幼児から高齢者まで気軽に参加できます。種目も健康ウォーキング、ソフトテニスなど、九種目を用意しています。チャレンジスポーツは学校の部活動では物足りないなどの要求に応えるもので、バレーボール、エアロビクスダンスなど五種目です。イベントでは、お花見会、百人一首選手権大会など数種目を計画しています。

総合型地域スポーツクラブの目的は、気軽に楽しめるスポーツ活動ならびに文化活動の振興を図り、地域住民の健全な心身の保持増進、地域に根ざしたスポーツ環境づくりを通じて、まちづくりに寄与することです。

## 二、総合型地域スポーツクラブができる

### 社会的背景はいかがですか

それについては福島大学の黒須充先生が、およそ次のように適切にまとめておられます。

わが国のスポーツの特徴は、種目やチーム、年代別に分かれて活動する、縦割りの構造になっており、異なった種目、世代間での交流は少なく、限られたメンバーでの活動になっている。なかでも学校運動部と企業スポーツが中心になって発展してきたが、少子化や長引く不況でその根元が揺らいでいる。

一方、これまでの市民スポーツにかかわってきた行政側の施策も単発的なイベントや恒例のスポーツ教室などに偏り、参加者の限定などマンネリ化が指摘される。

他方、人々の意識の変化は、健康増進や余暇活動など生活の一部としてスポーツを楽しむ「生涯スポーツ」志向派を増やしている。

これらの状況や欲求に応えようとしているのが、総合型地域スポーツクラブだということです。理想的には次のような特徴を持つのです。

- ◆ 地域住民の主体的な運営
- ◆ 自主財源を主とする運営
- ◆ クラブとしての理念の共有

を柱として、さらに①単一の種目だけでなく、複数の種目が用意されている。②地域の誰もが年齢、興



味・関心、技術・技能レベルに依じて、いつでも活動できる。④ 活動拠点となるスポーツ施設を持ち、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。⑤ 質の高い指導者がいて、個々のスポーツニーズに応じた指導が行われる。⑥ スポーツ活動だけではなく、できれば文化活動も準備されている。

「ハピスカとよさか」は、これらの特徴をほぼそろえて活動しています。

### 三、「ハピスカとよさか」の現状はどのようなのですか

会員数は、三七七名（〇二年度登録者）、当面の目標は一〇〇〇名です。

活動拠点は、市営総合体育館、市営テニスコート、市営屋内ゲートボール場、市営野球場、市営温水プールそして市内学校体育施設。

活動内容は、

第二・四土曜日：健康ウォーキング・バトミントン・

卓球・ニュースポーツ（カーリング、

フライングディスク、ペタンク、タ

ーツ、輪投げなど）・テニス（ソフ

ト・硬式）・3B体操・バウンドテ

ニス・グランドゴルフ・フットサル

第一・三水曜日：サッカー・バレーボール・エアロビ

クスダンス

第二・四水曜日：サッカー・バレーボール・バスケッ

トボール

第五水曜日：……サッカー・バレーボール・バスケッ

トボール

毎週土曜日：……学童野球

会費は、年会費、大人（高校生以上）は三〇〇〇円、

ジュニア・シニア（小中学生、六五歳以上）は一五〇

〇円、幼児（小学生未満）は無料。他に登録料（二〇

〇円）、保険料（四〇〇円）。一般参加（ビジター）

は、大人三〇〇円、子ども一五〇円。

活動経費は、（先年度で）クラブ単独予算額二三四

万円（他にクラブ予算に合算しないが、t o t o 助成

を含む豊栄市支援が一八五万円と豊栄市人的支援が五

四〇万円）。

人的に支えている人は、事務局専従スタッフ（有

給）が四人、ボランティアスタッフ（指導者以外）三

三人、指導者が一四九人。

特筆されるのは、〇三（平成十五）年四月から市営温水プールを「ハピスカとよさか」が委託管理運営していることです。これは大きな仕事で実績や信用がなければできません。

四、「ハピスカとよさか」はどのようにして生まれたのですか

文部省（当時）が一九九五（平成七）年から始めた「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」の一環、市町村生涯スポーツ振興事業補助金を一九九九（平成十一）年から得て、豊栄市や同市教育委員会の主導で準備が進みました。その点では行政の姿勢が決め手だといえるでしょう。

次が大まかの設立までの経過です。

- 二〇〇〇（平成十二）年末、設立準備委員会ができ、
- 二〇〇一（平成十三）年九月、任意団体総合型地域スポーツクラブ総合クラブとよさか（仮称）設立。〇二（平成十四）年一月、組織名称を公募、現在の名前に決定。同年九月、特定非営利活動法人設立総会開催。
- 〇三（平成十五）年二月、法人格取得。

五、「ハピスカとよさか」と学校体育との関連はどうですか

この地域も少子化や子どもたちの変化で、野球チームが組めない学校があります。そこで毎週土曜日の午前中に学童野球教室を通年で開いています。ほかには小学校の部活動の支援を模索しています。中学校には時間帯が合わないなど問題があり、まだうまくいっていません。

六、「ハピスカとよさか」で印象深いことやこれからの課題は？

たくさんの方がいますが、最近の例では夫婦親子連れで来て、いろいろな種目を次々に楽しむ姿子どもが尊敬の目で見ているのが分かって、いいなと思えました。多項目・多年代がスポーツを楽しむ姿は増えていきますし、その場を提供している喜びを覚えます。これは指導者やボランティアスタッフの共有するところでもあるでしょう。

課題は、たちまち一〇個くらいは挙げられます。何よりも設立一年余りで、まだまだ市民の「ハピスカと



よさか」の事業への認知は高くないことです。いっその理解を得ること、会員の獲得、事業参加者の確保、財政的安定、事務局体制の強化などに努めます。

おわりに

総合型地域スポーツクラブは、全国には一一三五箇所にできており、新潟県内は九つがすでに活動中です。神林村、小出町、分水町、聖籠町、紫雲寺町などに設立の計画があり、これから各地に次々と総合型地域スポーツクラブは普及されていくと見られます。「ハピスカとよさか」の経験を役立てていただければと願っています。

(よしだ たけお・研究所員)

